

編 集 後 記

百年に一度の国難と言われる新型コロナ禍の中，社会活動の解除も進んで来ていますが，未だ予断を許さない状況が続いています。私達の生活もニューノーマルとして新しいスタイルに移行することを余儀なくされ，医療現場においてもオンライン診療に代表されるような新しい医療スタイルの模索が始まっています。各学会の学術大会に象徴されるように，学術交流，情報交換もオンラインが主体となり，早くに従来の参集しての学術大会に戻れることを待ち望む会員も多いと思います。学術情報に関してもオンラインジャーナルが一般的な学術誌のツールとなってきています。一方，本誌のような冊子体は，手に取りパラパラとめくりながら，興味あるところをじっくり読む，本来の読書の楽しみが詰まっています。

本号【第127回生涯教育講座】では，ワークショップ型臨床教育の最先端である CST (Cadaver Surgical Training) の現状と今後の発展性が，また，脳梗塞超急性期のトピックである機械的血栓回収術 (mechanical thrombectomy) が，いずれも分かりやすく解説されています。【臨床・研究】においても，各分野からぐっと読者を引きつけるテーマが集まっています。ステイホーム，テレワーク，三密厳守の新しい生活スタイルで過ごす今，本誌をお手に取っていただくことがひと時のリフレッシュになれば幸いです。

コロナ禍が一日でも早く収束することを願いながら，編集後記とさせていただきます。

(Y.S)

島根医学編集委員

児玉和夫，貴谷 光，浅野博雄，大居慎治，沖田旺治，
齊藤洋司，佐藤比登美，小林祥泰，井川幹夫，中島健二，
小阪真二

島根医学

令和2年4月30日発行

発行者	島根県医師会
編 集	出雲市湖陵町 編集者 児玉和夫
発行所	松江市学園南2丁目3番11号 有限会社 松陽印刷所